

街を行く

第68回 たまプラーザ Tama Plaza

トレンド追い続ける街

もう20年も前の話です。不動産会社の関西支店を退職し、東京での生活を再スタートさせた地がたまプラーザで、およそ5年間暮らしました。近隣の方々と仲良くさせて頂くなかで感じたのは、ただならぬ程の教育熱の高さと横一列の生活スタイルでした。とくに生活スタイルが印象的で、皆誰もが同じ住宅ローンを支払いながら、子供にピアノや英会話などの習い事をさせ、夏は家族で海外旅行に行き、それなりのクラスの外車を所有して、犬を飼っていました。

賃貸戸建に住み、犬は飼っておらず、所有車は国産で、海外へはもっぱら仕事で出掛けるばかりの小生に、「まわりの皆は、なぜこんな豊かな生活ができるのだろうか?」と不思議でした。

いま考えると、当時の憧れ・ステータスがそれだったのでしょう。今は跡形もありませんが、時代とともに街は表情を変えるということの証左と言えます。

久しぶりに訪ねたたまプラーザですが、かつてとの変わり様に驚きました。駅前はまだ田園の住宅地というイメージはなく、ターミナル駅前の佇まいでした。駅前が進化し街が変化した理由は、おそらく職住接近が好まれるなかで、郊外の戸建てから都心のマンション暮らしがトレンドとなり、それを追いかけたからだと思います。

たまプラーザ駅前の立派な建物は、都心並みのサービス機能がこの街でも十分受けられ、かつ都心の流行が街に持ち込まれているという証拠です。実際、駅前の施設には都心でセレブに人気の



長閑な田園都市からミニ青山、ミニ表参道へ。今日もトレンド追い続けるたまプラーザ駅前

店舗が目白押し。へたな都心の街よりも集積があるかもしれません。

したがって、たまプラーザの住みよさや楽しみは、のんびりとした田園の風景から都心の衛星都市としての利便性になりました。周囲の人がこの街に期待するのは「ミニ青山」や「ミニ表参道」としてのたまプラーザで、そうであり続けられないと人が集まってこないかもしれません。

西欧の田園生活と大きく異なる面ですが、無論、異なるといっても決して間違いではない。そもそも日本人は西欧人とはものの考え方が違うからです。沿線開発を目的とした都市計画と、都市化に伴い必要に応じて電車を引いたという話との違いですから。

田園都市に乗り込み、少々型やぶりの都市論を述べて申し訳ありません。田園での長閑な生活をエンジョイすることを目的にこの街を選んだ方々にお詫び申し上げます。



南 一 弘



1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発(旧松下興産)の代表取締役役に就任。2006年ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役役に就任。